

平成24年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。、評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼崎市立 名和小学校

平成24年度 学校評価

学校教育目標「心豊かにまなび続ける子の育成」

めざす子ども像「自ら考える子 思いやりのある子 健康でがんばる子」

研究テーマ「意欲を持って、自ら学び続ける子をめざして」 サブテーマ「確かな学力の定着と向上を図り、算数的表現力を育てる授業の創造」

学校教育に関する重点取組

1 学習意欲を高め、確かな学力を身につけさせる

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 授業改善をベースとした学力向上の推進	3	・「めあて→個人思考→集団思考→振り返り」の授業パターンの実践 ・上記の課程で、解らないこと、つまずきを基に授業を進める	・グループ学習による意見・質問の表出を促せた ・全体の場での上記の取り組みは今後の課題 ・5、6年ともに、外国語活動が充実し、担任の指導力も向上している	3	・授業改善に向け講師を招聘して研究を強化する。 ・管外研修で先進校に学ぶ ・ALT・JLTとの連携を来年度も強化するため、年度末に振り返りの会を持つ ・大成中学校、立花東幼稚園との連携が授業研究等教育活動の面に及んできたことをさらに具現化し深めていく ・心の教育特別支援員や大学生のボランティアの支援が効果的に働いたことを受け来年度も継続・発展させていく
(2) 滑らかな成長につなげる校種間の連携	3	・外国語活動におけるALT、JLT、担任の連携による単元作り	・前年度までの実施を土台に、益々幼小、小中連携が進んでいる		
(3) 教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	2.8	・幼小連携、小中連携の具体的な計画の実施(交流給食、体験参観、夏期研修会、交流授業、交流研究、体験クラブ活動) ・一人一人のニーズに合わせ、個に応じた対応 ・心の教育特別支援員、学生ボランティアの適宜活用	・配慮を要する児童の社会参加意識の芽生え、高揚が見られた ・受け入れる周りの児童の成長が見られた ・不登校や登校しぶりの児童対策の研修を持ち職員で課題を共有できたが、解決は難しい		

2 心の安定を図るとともに、規範意識や自己実現の意識を育み良好な人間関係づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 命を尊ぶ心を中心とした道徳性の涵養	2.8	・道徳における副教材の活用・持ち帰り ・情報モラルの公開授業実施	・道徳授業の内容の充実が図られた ・道徳授業の学習を校外学習の場で実践できた ・携帯等のトラブルがあった。継続した指導が必要	3	・学校全体での道徳の取り組みを強化する ・情報モラル研修や情報モラルの公開授業を定例化する ・保健室と職員室、担任で情報を共有し児童の指導や支援に努める ・SCと連携しながら課題を持つ児童理解の全体研修会を年間2回以上持つ ・不登校児、全職員で支援していく体制づくりを強化する ・外部や専門機関からの支援を得る
(2) 基本的な生活習慣の確立と情報モラル等の指導の充実	3	・各学年向け情報モラル資料の配付 ・保健室のドアをオープンにし相談しやすくしている	・児童の様子把握を保健室と職員室と連携している ・相談の児童の様子がSCによくわかるようにした ・体調不良による欠席の継続、心の問題による欠席の継続の解決が課題		
(3) 相談体制と長期欠席者の指導の充実	3	・スクールカウンセラーと連携している ・欠席時の電話連絡、3日連続欠席の家庭訪問、お手紙渡し等の実施	不登校や登校しぶりの児童対策の研修を持ち職員で課題を共有できたが、解決は難しい		
(4) 進路指導の充実	3				

3 健康の増進と体力の向上を図る					
評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 望ましい生活習慣の育成	3.2	・学期1回による「生活点検」で家庭の生活習慣を把握	・家庭の生活習慣を見直すことで児童の意識は改善に向かうが継続が難しく保護者の協力が重要となる	3.5	・学校通信、保健便り、学年便り、学級便り等で、適宜基本的な生活の大切さを訴えていく ・懇談会等保護者が集まる場で、折々訴えていく ・常時、運動に親しめるように補助具（縄跳び板、鉄棒カバー）等の設置を継続する
(2) 健康の増進と体力の向上	3.2	・体育授業時のラジオ体操実施 ・冬期耐寒マラソンの実施	・授業前の準備運動によって事故や怪我の未然防止ができる ・寒さに負けない強い気持ちと最後まで走る根気等、精神力の育成ができる		
4 保護者や地域に信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む					
評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 登下校の安全確保の取組の充実と校内の安全	2.6	・集団登校の実施 ・地区児童会、集団下校（年3回）の実施 ・避難訓練の実施（年3回）	・集団登校による安全の確保ができていない班がある	3	・地区児童会で集団登校の話し合いを持つ ・地区担当教諭による集団登校時の課題への即応 ・より実践的な避難訓練の実施の工夫 ・自転車教室・交通安全の開催 ・学校評議員の構成メンバーを工夫し多角的な評価を得られるようにする ・地域・保護者との連携を継続・強化する ・研究による授業改善の取り組みの強化と研修の充実
(2) 学校評価の活用	2.9	・校内安全点検の実施 ・学校評議員会の実施	・速やかに避難できた、防災意識の高まりが見られる		
(3) 地域とのつながりを重視した開かれた学校園づくりの推進	3.1	・学校行事へ地域、異校種をご案内 ・行事での保護者アンケートの実施	・児童の安全意識の芽生え、高まりが見られる ・保護者による学校行事への参加意識の高まりが見られる		
(4) 教職員の自己研鑽	3	・3学期、保護者アンケートの実施の計画 ・地域・保護者と連携した登下校見守りと毎日の密なる情報交流 ・各学年の研究授業、授業公開の実施	・保護者の行事への満足度が高い（体育大会、音楽会等） ・地域の見守りの温かさがいつも有り難い ・学年団、グループ一体となつての研究で、成果を上げつつ、さらに教員の指導力向上を目指す		
教育目標					
評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	3	・入学期の保護者と教育目標の共有（1年） ・学年協力して行事（体育大会、音楽会） ・「考える授業」の確立（研究）（2年） ・環境体験学習の充実・問題行動の早期発見、早期解決（3年） ・「朝の学習」「毎日の算数」の取り組み（4年） ・自然学校で自主的な行動の促進・段階を踏んだカリキュラムと教具の選択（5年） ・学年目標「最高学年としての誇り」の日日の実現（6年）	・家庭学習の習慣化が進んだ、「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣化をさらに進め学力との関連を保護者に訴えていく（1年） ・協力することで気持ちが高まった、研究の成果と継続の課題（2年） ・学び続ける態度の育成が課題、学年一致団結し早期解決した（3年） ・学力差が大きく授業だけでは不十分（4年） ・主体的な行動が見られるようになった、系統性で技術向上、実態に沿った指導ができた（5年） ・大きな行事で成果、日常で課題（6年）	3	・家庭学習の習慣化を目指し、家庭との連携をする ・全教職員で共通理解して取り組む
(2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.9				

研究テーマ					
評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	3.1	・「朝(の)学(習)」「毎(日)算(数)」の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の基礎学力が向上した ・基本的な学習態度が確立できた ・今年度、特に、表現力の育成を目指した。実施初年度で今後の向上を目指す ・各学年の試行錯誤が継続される 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・少数指導の更なる研究と充実を目指す ・校内研究の継続 ・年間を通した、学年で統一した取り組みを行う ・国語科での取り組みの必要
(2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3.1	・「名和小学習のきまり」の作成と実施の継続			
(3) 校内研究のあり方	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し方スキル」を校内全教室に掲示し、授業における交流場を強化 ・授業改善、考える授業の確立 			
評価内容	評価Ⅰ	具体的な取組	成果・課題	評価Ⅱ	改善策

学校関係者評価		※ 評価Ⅲの基準	
		4:よく取り組んでおり、成果が大きい 2:取り組んでいるが成果が十分でない	3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる 1:取組が不十分である
学校関係者意見等	評価Ⅲ	学校関係者意見等	評価Ⅲ
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて細かく取り組んでいる ・小学校ならではの取り組みである ・小学校の先生は幅広く教えている ・学力調査で全国平均よりいいのがある、すごい ・生活実態調査でテレビやゲームの時間が減ってよい 	3	<ul style="list-style-type: none"> ■教育目標 ・学校目標にむけて十分がんばっている ・目標達成できたとしているのが8, 9割ある、いいと思う 	4
<p>2 心の安定を図るとともに、規範意識や自己実現の意識を育み良好な人間関係づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の中は見えない、大切なこと ・人々の連携、関係づくりがよくできている ・心の基盤づくりが一番大事、心根ができてることが素晴らしい 	3	<ul style="list-style-type: none"> ■研究テーマ ・今後の期待できる ・積極的な話し合いができるように、手を挙げて発表できるように更にがんばって欲しい ・共感的な教室の雰囲気がいい ・友だちに触発され好転していく、努力していく 	3
<p>3 健康の増進と体力の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の子は生きるために働かなければいけなかった、今はそれがない ・体力をつけることが大事 ・家庭の生活習慣が大事、生活点検はよい、学校の発信が大事 	3	■	
<p>4 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん達は集団登校が安全だと安心している、特に小さい子のお母さんが ・年上の子が、下の子の面倒を見ることはいい、自覚を持つ ・1年生の安全に役立っている ・地域のお母さんや子どもが防犯名和に話しかけたり挨拶することが増えてきた、嬉しい ・PTAの参加数が増えていい ・地域との交流大事、お茶会など大事 	4	評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)	評価Ⅳ
		アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
		自己評価の結果の内容は適切か	B
		自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B